

# 1. 評価結果概要表

平成21年4月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173700295		
法人名	社会福祉法人 大滝福祉会		
事業所名	グループホーム 癒しの郷		
所在地	〒049-5812 北海道虻田郡洞爺湖町川東80-19 (電話) 0142-89-2700		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月7日

## 【情報提供票より】 (21年2月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 12 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.3 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円		
その他の経費(月額)	水道光熱費 18,500円 冬季月10~3月 別途 5,000円		
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要 (2月3日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.2 歳	最低 80 歳	最高 100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	聖ヶ丘(サテライトクリニック)
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「癒しの郷」は、洞爺湖が一望できる小高い丘に立地している。建物は天井吹き抜け構造で、リビングの窓越しに四季折々の自然の移ろいが堪能でき、木のぬくもりが感じるゆったりとした開放的な住環境である。管理者と職員は、認知症理解を深めながら共に協働を図り、利用者の意思を尊重した少人数での個別ケアに取り組んでいる。職員はそれぞれの個性を發揮し、利用者に穏やかで温かく接しながら、対話を重視した支援を行っている。地域の方々と交えた家族親睦会が開催されている。別棟にあるかけ流し温泉は皆の憩いの場になっている。また月1回、避難訓練を実施し、防災対策強化に取り組んでおり、安全でやすらぎのある利用者の日常が窺える事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で改善課題として、事業所独自の理念の策定が挙げられていたが、速やかな改善に取り組み、事業所の方針・目標の更なる明確化に繋がっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の作成に当たっては、全職員が日頃のケアサービスを省みて、個々に評価項目に向き合い協議して作成している。また外部評価結果を受けて半年に1度自己評価に取り組み、課題改善や質向上に努力している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月毎に定期的開催を重ねている。事業所の実情や行事報告、外部評価結果などの情報を開示し、意見交換を実施して運営に反映させている。地域との交流に関しては、事業所主催の行事に参加を頂き、認知症の勉強会の開催など具体的な活動が活発化してきている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には個々に応じたきめ細かな情報発信を実施している。コミュニケーションを大切に機会を捉えて意向等の聴取に努めている。家族とは良好な関係が築かれてきているが、更に意向の表出を促し、より良いケアサービス提供に繋がった取り組みが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣住民とはお裾分けや訪問など気軽なお付き合いがあり、町内行事や小学校などの発表会・運動会に出掛けている。また事業所の親睦会には多数の住民が参加し、地域との関係が深まっている。運営推進会議を通して地域交流が活性化されており、更に地域密着型サービスの浸透を目指し、事業所の特性を活かした地域貢献への取り組みを期待する。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基盤に、地域や利用者ニーズを見据えた事業所独自の理念を策定し、地域に根差したサービスの提供に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念、事業所理念は事業所内の目に付く所に掲示され、理解・周知を図っている。管理者は日々のケア場面で理念に結び付けて具体的に説明し、職員はサービスの根源となる理念を念頭に置き、同方向でのより良いケアの実践に日々努力を重ねている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣住民とはおすそ分けや訪問があるなど、気軽なお付き合いがなされている。高校や小学校の発表会や運動会などの見学に出掛けている。家族会として実施される親睦会には、多数の町民の参加があるなど、地域との交流が深まっている。	○	理念の具現化として、事業所は更なる地域密着型サービスの浸透を模索している。地域との交流に留まらず、自治会や地域の福祉、介護等関係機関との連携やネットワーク作りに取り組み、事業所の特性を活かした地域貢献への取り組みを期待する。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員個々が評価項目に取り組み、全体として協議し纏め上げている。外部評価結果を受けて、改善に向けて会議を持ちながら、事業所全体で質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の定期開催を重ねている。事業所の実情や行事報告、外部評価結果など情報開示を行い、提案された意見は検討し、運営に反映させている。地域との交流については、事業所主催の行事参加や認知症の勉強会の開催、防災対策など会議が有効に作用し、成果に繋がっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、利用者が地域参加の機会を多く得られるよう地域密着としての情報交換を頻繁に行っている。介護業務・後見人制度など実務上の懸案事項についても、日常的に行政の担当者と連絡や相談を行い、協働を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へはきめ細かな情報提供を行っている。事業所の活動状況や職員異動は、毎月の通信「みずうみ」を送付し、また日々の生活や健康状態、金銭管理なども個々に応じた伝達に取り組んでいる。状態変化時の速やかな相談や来訪時や電話での報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部の相談窓口のほか、法人内や外部機関の窓口が明示され、表出された苦情などに関する対応の仕組みも整備されている。家族とのコミュニケーションを大切に、来訪時や運営推進会議、家族会などを通して、話しやすい雰囲気作りや意向の聴取に努力しているが、意見・苦情等の申し立ては少ない。	○	開設5年を経過し、事業所の更なる質の向上には、家族の率直な意見は不可欠でもあるので、意見や要望などの聴取の方法を工夫し、より良いケアサービスの提供に向け取り組む事を期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や法人内異動などの職員交代は少ない。馴染みの職員によるケアサービスが提供されており、職員交代があった場合は、利用者・家族に説明し、利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で、職員の経験や習熟度に応じて新人研修、3年、5年の段階的研修を実施している。事業所では、働きながらの学びが進められ、また外部研修後に報告書の提出や発表、資料の回覧を行い、職員の質向上に繋がる育成が行われている。さらに職員のモチベーション向上や技術の取得に向け積極的な外部研修参加への取り組みも考慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西胆振管内のグループホーム広域連合会を通して、活動報告や情報交換、相互訪問などが行われ、実践的な交流や勉強の機会を得ている。また法人組織の運営推進会議が開催され、系列事業所との日常的な連携も図られている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望の相談段階から、利用者・家族の困難さや心配事を受け留め傾聴し、できる限り本人にも見学や体験を勧めている。利用初期は、家族の協力もいただきながら、対話や関わりなどを通して徐々に双方の理解を深め、他の利用者や事業所に馴染んでもらえるよう個別対応に配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりが心地よく生活できるよう、個々に添う支援を心掛けている。今までの生活経験や現状のできる事を引き出し、共に過ごす者として、互いに分かち合い、喜怒哀楽を共感し合う温かな関係が作られている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常のコミュニケーションを重視し、生活歴やケア場面での気づきをもとに、本人の望む暮らしや意向を把握し、共有を図っている。リビングで寛いだり、菜園の草取りや自室での縫い物など利用者が主体となった暮らしの支援に繋げている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく安心・安全な生活を支えるための記録の蓄積がなされている。日常の状態観察を行い、ケアチェック表を用いて生活課題の抽出に繋げ、職員全員で協議・検討し、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画作成後は毎月のカンファレンスで状態の確認を実施し、現状の課題分析を行い、3ヶ月、6ヶ月の定期見直しを実施している。状態変化時や退院後には、家族と話し合いながら随時の見直しも行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買物、家族の宿泊など利用者・家族の要望や状況に応じて柔軟に支援している。また別棟の交流スペースには大勢の宿泊や温泉入浴が可能であり、利用者、家族に喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から月に2回の訪問診療のほか、利用以前からのかかりつけ医の通院も支援している。電話による24時間の医療相談が可能であり、利用者が適切な医療支援が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として終末期ケアは実施していないが、契約時に、重度化した場合や終末期に関する対応の方針について、本人や家族に十分な説明を行い、同意を得ている。利用者が重度化した場合は、状況の変化に応じて本人や家族、医療関係者を交えて話し合い、共有に取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修を行い、職員は利用者一人ひとりの尊厳を損なう言葉使いや対応をしないよう常に意識してケアに当たり、また記録管理の徹底が図られている。契約時に個人情報保護に関して説明を行い、情報利用の際の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしい暮らしを送るために、一人ひとりのペースや意欲を引き出す取り組みが行われている。職員は事業所の理念のもとに受容を大切にし、落ち着いた雰囲気の中かで利用者の希望に寄り沿った支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際に、一緒に準備や片付けを行い、時には調理のアドバイスを利用者から受けるなど職員と利用者の協働が行われている。献立についても、週2～3度希望を聴取し地元の新鮮な食材や利用者の育てた野菜を使った好みの献立が盛り込まれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は午前・午後・夕食後等と利用者の希望に基づいており、掛け流しの温泉が利用者的好评を得ている。入浴の声掛けも一人ひとりのペースと気分を尊重し、入浴されない場合には足浴などを実施している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりや、野菜作り等、利用者の興味と能力に応じた役割や、事業所周辺の散策など四季折々の楽しみの支援をしている。また、職員が一方的に支えるのではなく、作物の越冬など利用者から学ぶ場面もあり、生活の知恵や喜びを皆で分かち合う場面が利用者のプライドに繋がっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散策の誘いを行うなど、事業所から出かけられるよう声掛けが行われている。また、外出や散策の希望がある場合は出来る限り対応し、気分転換ができるよう支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日頃から利用者の気持ちの理解を大切にしており、利用者の状況や行動を見守り、外出を希望される場合は職員と一緒に行動することで安全に配慮しつつ、日中は鍵を掛けないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所に隣接する交流スペースに避難を行う訓練を毎月実施することで、職員と利用者双方に混乱を生じさせないよう手順が周知されている。また、地域との交流により災害時の連携協力体制が確立されている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際は会話をしながら楽しい雰囲気ですごすよう職員が配慮をしている。摂取量の記録を行い、食事量や水分摂取量が不足している場合は好みのメニューを取り入れるなど一人ひとりに合った支援ができるよう系列の栄養士とも連携しながら支援が行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりと開放感のある建物で、清潔感があり明るく静かな環境となっている。利用者の育てる植物や季節の装飾などと共に、居間から望む湖の景色をゆったりと眺められるソファや、他の利用者の存在を感じながら一人で過ごすことができるスペースなど、思い通りに過ごせるよう工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが思い出の家具や、家族との絆を感じさせる装飾や品物、機能的な家具など思い出の部屋を演出しており、それぞれの利用者の人となりを感じられる居室となっている。		

※  は、重点項目。